## 会議要旨書

会議名	第1回国立天文台周辺地域土地利用整備計画検討委員会
日時	令和7年9月10日(水)午後6時30分~8時06分
場所	大沢コミュニティ・センター3階 多目的室
出席委員	吉岡克俊・野上和裕・榛澤正夫・生江幸子・岩田洋子・石崎明・大塚英子・小
(24 人)	川琢也・小倉淳・野上麻千子・大前良弘・上條梨恵・湯澤弘幸・藤橋初美・倉
	田清子・海老澤一晃・蔵野貴通・髙橋奨・青木睦・濱野周泰・寺林晋也・田野
	倉愛・福地久美子・盛田羽菜
行政職員	国立天文台周辺地区まちづくり推進本部本部長 松永透
(9人)	国立天文台周辺地区まちづくり推進本部事務局
	事務局長 髙松真也、理事 齊藤大輔・山中俊介、次長 野﨑昭博・越政樹、
	主査 山内健二・永田五月、主任 丸岡裕己
会議の公開・	公開
非公開	
傍聴人数	20 人 (会場内 10 人、別室 10 人)

## 1 委嘱状交付

委嘱状交付、「三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例」に基づき会議の公 開、傍聴人入場、会議録の作成についての説明

- 2 自己紹介
- 3 国立天文台周辺地区まちづくり推進本部長 挨拶
- 4 国立天文台周辺地域土地利用整備計画検討委員会について

委員長・副委員長の選任

委員長 濱野委員

副委員長 生江委員、湯澤委員

5 国立天文台周辺地域土地利用基本構想について

事務局より資料に基づいて説明

## (質疑応答)

【委員】移転後の通学サポートについて、スクールバス等を活用するということだが、この 施設は、防災拠点ということも考えて作られるのか。

【事務局】おおさわコモンズは、あらゆる災害に対応できる防災拠点として整備する。

- 【委員】避難所としても活用されると、坂下から坂上に避難は大変である。先ほど言った、 通学へのサポートについて、例えば避難するとき、通学サポートのスクールバス等を活用 することも考えているか。
- 【事務局】災害時における避難時の支援として、今年度、市内の観光バス事業者と協定を締結した。観光バスを利用し、避難時の移動支援に活用できないか検討中である。また、災害が大きな場合に、通学サポートで使う車両についても合わせて、避難時の支援に使えないかということは、今後検討していきたい。
- 【委員】通学サポートについて、低学年だけではなく、小学生全学年を対象としてほしい。 坂や階段を上がるのは大変である。中学生になれば、体力もつき、今も第七中まで通って いる。しかし、小学生のうちは、特に暑い時期の遠い通学は厳しいので検討してほしい。

【事務局】現時点では、低学年を中心に、小学4年生の中学年までを考えている。

【委員】長距離通学することにより、犯罪や事故に巻き込まれる可能性が高くなるため、検 討してほしい。

【委員】国立天文台周辺地域とは、おおさわ学園の学区域と同じか。

【事務局】同じである。

6 国立天文台敷地北側ゾーンについて

事務局より資料に基づいて説明

7 おおさわコモンズにおける学校機能について

事務局より資料に基づいて説明

【委員】児童が減っており、通学も遠くなるなかで、学校をまとめる理由はなにか。既存建 物の活用は考えられなかったのか。

【事務局】まちづくりの検討のきっかけは、国立天文台が北側の土地を民間事業者へ売ることを検討していると相談があったことから始まった。その場合、すべて宅地開発され、緑が全てなくなってしまうことから、市として避けたいと考えた。また、大沢地域の地域課題として、羽沢小が野川の洪水浸水想定区域内にあること、買い物不便環境であること等から、羽沢小を安全な高いところに移転し、天文台の緑を守りながら、また羽沢小跡地には地域に不足しているスーパーマーケット等を誘致できれば、地域課題の解決につながるということで、検討を始めた。

【委員】浸水想定区域にスーパーマーケットを誘致するということか。

【事務局】誘致する条件として、浸水想定区域にある旨は、民間事業者へ案内をする。対応 方法としては、高床式整備なども考えられる。

【委員】推計値で各小学校、全学年1クラスになってしまう2033年(令和15年)に、合併して2クラスになるのではなく、学年の人数が異なることから、12クラスになりきらないのではないかと思う。合併した後も1クラスということがいずれ来る。施設として持て余さないか。

【事務局】昨年推計したものだが、クラスを合わせた時に、各学年2クラスになるという推計となる。市の長期的な推計では、下がった後、横ばいの推計になっている。

【委員】他の学校では一学年4クラスで教室がもう足りない状態になっている学校もあるが、バスやAIデマンドを使えば、遠方からでも通学できるのではないか。学区の見直しは検討しているか。

【事務局】市内の学校でも人口動態にあわせて見直しをしているところはあるが、大沢地域 は長期的に横ばいになる推計に基づき、現時点で学区の見直しは考えていない。

## 8 事務連絡

事務局より次回第2回検討委員会を9月24日(水)に実施する旨の案内